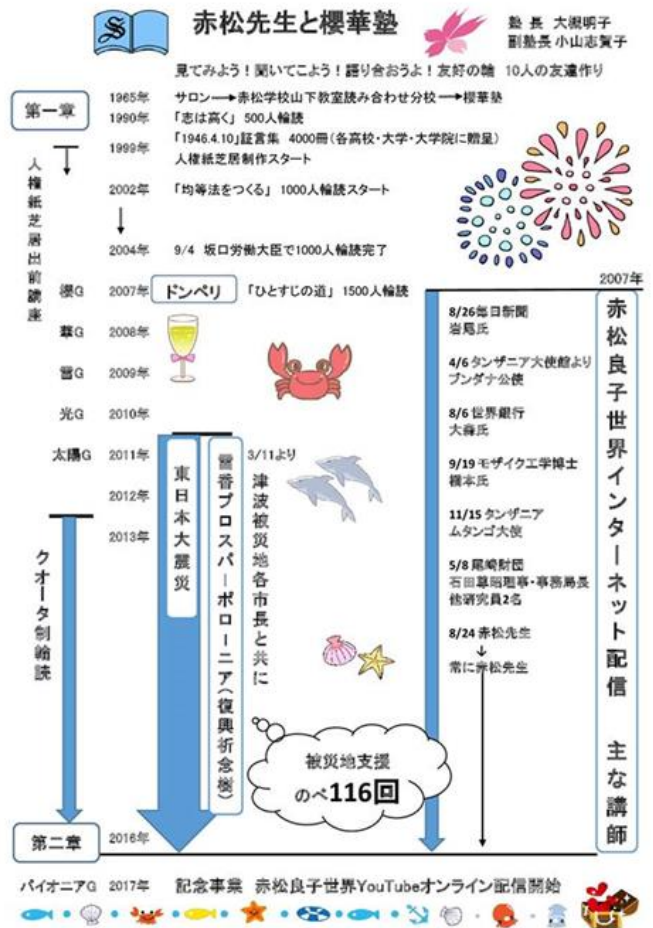


赤松良子先生と櫻華塾の歩み ～歴史を知り踏み出そう！新しい時代の構築～

一冊の会筆頭最高顧問の赤松良子先生の米寿を一冊の会櫻華塾生一同の真心でお祝いした事は前号(万葉1125号)でお伝えしました。

一冊の会と櫻華塾生は先生から多大な励ましとお力を頂いてまいりました。「見てこよう！聞いてこよう！語り合おうよ！友好の輪 10人の友達作り」で始まった「サロン」は、赤松学校山下教室読み合わせ分校となり、櫻華塾に発展いたしました。1990年に『志は高く』の輪読をいたします、と赤松先生に申し上げましたところ、先生から「壁を破りなさい」とのお言葉をいただき、そのお言葉を胸に500人輪読を達成することができました。2002年『均等法をつくる』では1000人輪読を達成しましたが、その時も先生から「次は1000人」との目標をいただきました。その頃「会員は1500人おります」と先生に申し上げておりましたが、一冊の会は鉛筆を寄贈してくれた心ある方々皆会員として数えており、その中には子供も大勢おりましたので、正直1000人は相当頑張らないといけませんでした。記念すべき1000人目は坂口力厚生労働大臣(当時)となり、結果1249人の輪読に成功出来たのも、先生から背中を押されたからに他なりません。輪読の輪を広げる為に奔走してできた人脈の輪は、後々東日本大震災被災地支援をする時に大変力となりました。この時の会員の皆様の努力がなければ、迅速に支援物資を車に積んで向かうことはできなかったと思っております。

2007年、先生は大槻会長と小山副会長を労ってくださり「美味しいものでも食べなさい」と言ってくさいましたが、会長はそのお心遣いに感激し、「一冊の会赤松良子世界インターネット配信」を開始しました。インターネットという新しい時代の力で世界に向けて発信していた「赤松良子世界インターネット配信」は大変好評でしたが、一つ問題がありました。日本では丁度良い時間に配信しても、世界で活躍している会員からは「時差があるので時間が合わず見ることができない」といった声が届きました。次の手段としてIT時代の情報発信にはフェイスブックという新しい器ができ、大変普及してきておりましたので、フェイスブックで情報を発信するように進化いたしました。そしてこの度「You Tubeでの動画配信」というさらなる



赤松先生と櫻華塾の歴史を年表にして
祝賀会当日に配布いたしました。

進化を遂げることを、祝賀会の中で鬼童事務局次長が発表いたしました！パイオニア精神の赤松先生に続く熱意に溢れたメンバーが、赤松先生の志をより高く推進してまいります。

祝賀会では、4人の櫻華塾生が代表して発表をさせていただきました。鳥飼さんは、常に事務所に飾ってある旭日大綬章を受章された折の赤松先生のお写真を携え、自身が出産を機に仕事を辞めるよう言われた過去の職場での辛い体験を交え、均等法の産みの母である先生に感謝の気持ちを述べられました。

深川さんは東北大震災の折、赤松先生が財布の中身を全て大槻会長に渡して下さったエピソードに触れ、先生の何があるかと人間の「心の宝」を大切にとの崇高な志の高さを常に学ばせて頂き、一冊の会一同ここまで走って来ることが出来たことへの感謝と、次世代に語り部として伝えて行く決意を発表しました。

瀧川さんは、『均等法をつくる』の1000人輪読が先生からのお言葉があって成功できたことへの感謝を伝え、先輩方が築いてきた友好の輪の活動の下地への感謝と、自身の体験を話しつつ赤松先生と均等法への感謝を発表しました。



鳥飼さん (左)



深川さん



瀧川さん



山内さん

山内さんは、IT企業で働いている自身の職場の状況を報告し、男性の意識改革なしには女性の力が発揮できる環境の実現が難しく、女性の意見を反映するためのクォータ制の実現においては男性の理解とサポートも欠かせないと発表しました。



中本さん

4人とも赤松先生に感謝の気持ちを伝えたいという思いで発表しました。その心は塾生一同皆同じです。そんな一同を代表し大槻会長は心温まる名司会を務めてくださいました。最後にこれからの話をされました。現在、一冊の会は津波被災地各市町と共に復興祈念樹（雪香プロスパーポローニア）の植樹を行っておりますが、今後も時間がかかろうと全市町村に植える計画を遂行する決意を大槻会長が改めて表明されたのです。赤松先生からきっかけを与您いただいで構築できた人脈の輪はここまで広がり、さらに羽ばたこうとしております。その新たな一歩を踏み出すにあたり、中本さんが会長の決意を引き継ぎ東日本大震災祈念植樹の中心者となる決意を宣言いたしました。

祝宴の興奮が冷めない暑い夏ではありますが、一冊の会はずでに新しい時代の構築へ踏み出しました！皆で共により良い世の中となるよう努力し、その将来に一步一步踏み出しましょう！

最後に、事務所に届いた若手メンバーの感想を抜粋いたします。

お祝いのバラを頂き、ありがとうございました。太陽グループの名に恥じぬよう勉強してまいります。(石関)

赤松先生のお言葉から、女性の地位向上や社会貢献に向ける想いを強く感じました。

「1946.4.10 初の婦人参政権行使と日本女性自立への出発」の証言集のデータ入力をさせていただき、女性が権利を手にしたその瞬間にどれだけの感動があったかを感じながら入力しています。男女共同参画社会の構築に向けて、今後も精進して参ります。(椎名)



文責：平間研究員・赤田研究員